

# 伊平屋空港の調査報告書1

パブリック・インボルブメント(ステップ1)

詳細版



## 伊平屋空港協議会

[沖縄県・伊平屋村・伊是名村]

パブリック・インボルブメントとは  
(Public Involvement)

「市民参画」または「住民参画」と訳されます。公共事業の施策を立案する過程で地元住民などから幅広く意見を募り、計画決定に活かしていく手法です。

# 伊平屋空港のPIの進め方

伊平屋空港協議会（沖縄県・伊平屋村・伊是名村）では、伊平屋空港の整備にあたってパブリック・インボルブメント（PI）手法を導入し、計画段階から両村民を中心とする関係者の方々に積極的に情報を提供し、皆様のご意見を伺いながら検討を進めることとしております。

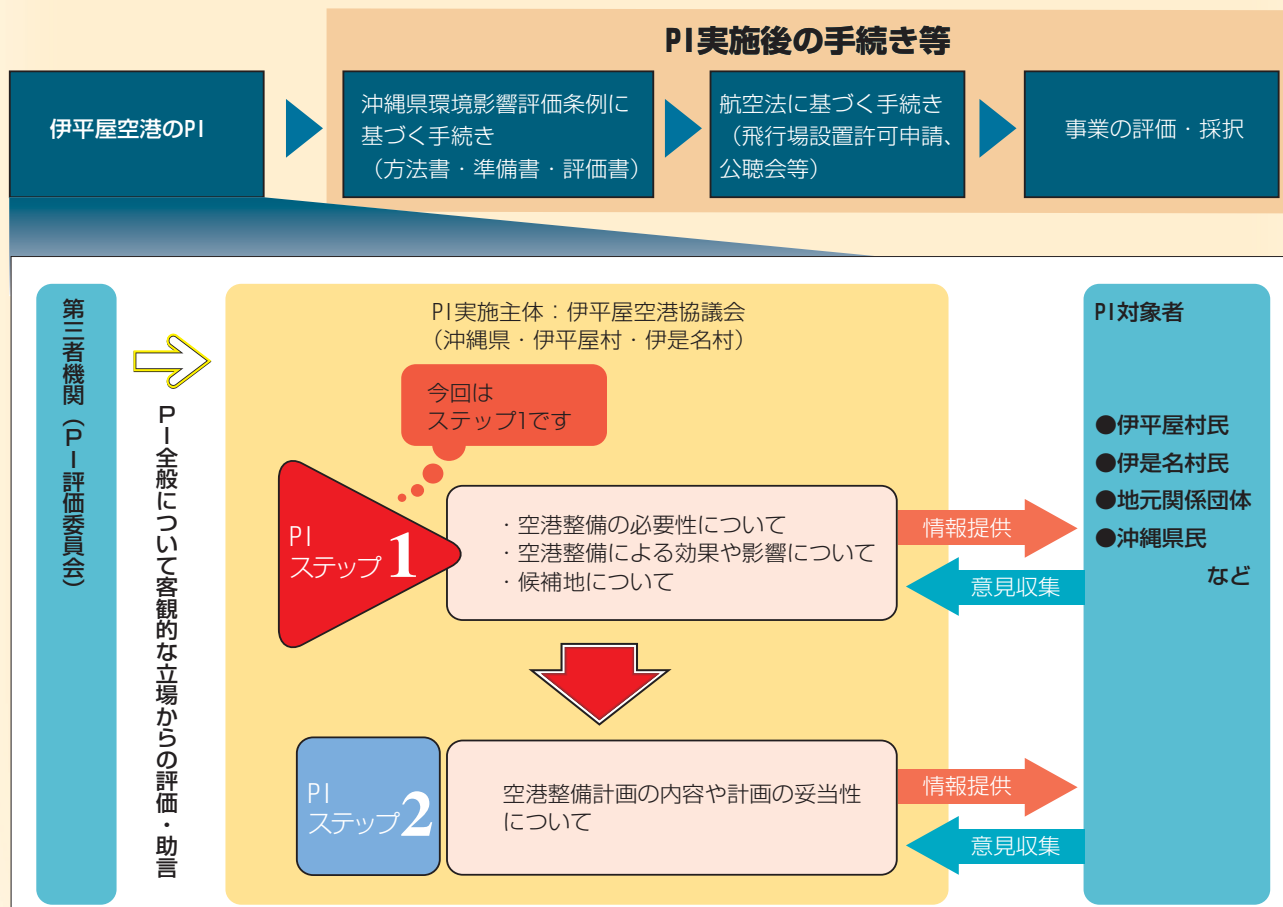
## ●PIを行うことの意義

PI手法は、行政が市民への説明責任を果たし、透明性、公平性を確保しつつ、さらに効率的な事業の実施を可能にするなど、住民参加を促す必要不可欠な手法として認知されています

## PIを行うことの意義

- ①事業に関する市民の認知度、理解度の向上
- ②市民ニーズを反映することによる事業の質的向上
- ③事業に対する市民のコンセンサス形成に向けた環境整備
- ④事業の効率性（時間・費用）の向上と事業の透明性、公平性の確保

## ●伊平屋空港のPIの進め方



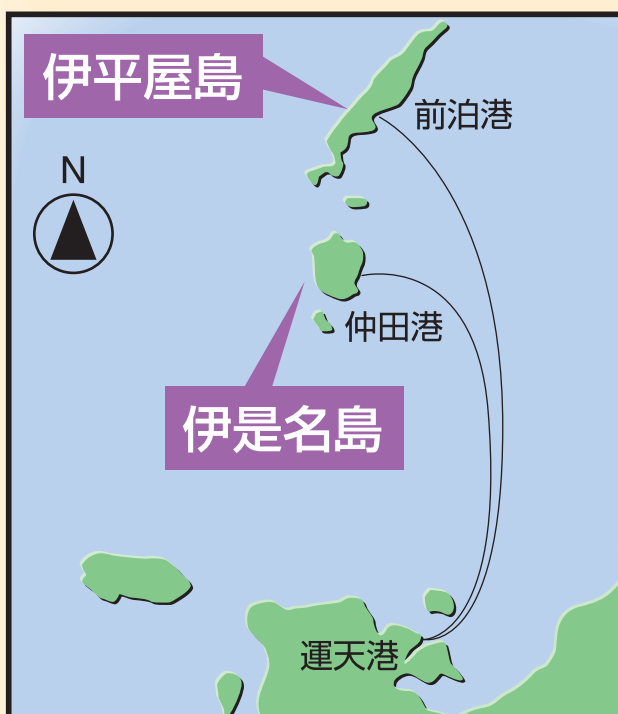
# 空港整備の必要性について

## 伊平屋・伊是名村の交通体系の現状

### 伊平屋村・伊是名村－運天港間フェリー

伊平屋村・伊是名村は沖縄本島那覇市の北約 100 km に位置する離島村であり、沖縄本島との交通は両村と運天港との間に運航しているフェリーが主に担っています。

運天港までの乗船時間は、運天港－伊平屋間（前泊港）が約 80 分、運天港－伊是名間（仲田港）が約 55 分であり、運天港－伊是名間については平成 10 年のフェリー更新により、所要時間が以前と比較して約 20 分短縮されています。



#### ■ 運天港－伊平屋：フェリーいへや (300 人乗り／乗用車 33 台)

	運天港発	伊平屋着	伊平屋発	運天港着
1 便	11:00	12:20	9:00	10:20
2 便	15:00	16:20	13:00	14:20

#### ■ 運天港－伊是名：フェリーニューいぜな (245 人乗り／乗用車 40 台)

	運天港発	伊是名着	伊是名発	運天港着
1 便	10:30	11:25	9:00	9:55
2 便	15:30	16:25	13:30	14:25

－運天港－伊平屋・伊是名間のフェリー運航状況（平成 18 年 7 月現在）－

### 伊是名村－那覇空港間航空チャーター便

伊是名村には平成 10 年 8 月に整備された場外離着陸場（滑走路長：610 m）があります。平成 17 年 9 月までは那覇空港との間でチャーター便が定期的に運航されていましたが、現在では利用者の要請があったときにだけチャーター便による運航が行われています。運航に現在使用されている航空機は小型プロペラ機（旅客定員最大 9 名および 3 名）であり、運賃は使用機材や利用人数によって異なります。



## 伊平屋村・伊是名村を支える交通の問題点

### 伊平屋・伊是名から沖縄本島への移動に要する時間

伊平屋・伊是名村からフェリーを利用して沖縄本島へ移動する場合、那覇市内までは4時間程度を要します。

わが国の「最寄り空港人口カバー率※」は、既に1時間圏で約75%、2時間圏では約97%に達しており、国民のほとんどは最寄りの空港まで2時間以内で行ける距離に住んでいることとなります。

那覇空港への移動に4時間以上を要する伊平屋・伊是名村は、わが国の高速交通体系網に組み込まれていない数少ない地域であると言えます。

このように、伊平屋・伊是名村は、日本本土はもとより、沖縄の中心地である那覇からの移動にも長時間を要し、人々が気軽に訪れることの出来ない離島となっています。

このため、両村が様々な地域活性化策を実施したとしても、他地域との交流が生まれにくく、その効果が十分に得られないといったことにもなりかねません。

※「最寄り空港人口カバー率」：最寄り空港までの1時間圏域人口の総人口（全国）に占める割合を、最寄り空港1時間人口カバー率として国土交通省が設定しています。文章中のカバー率は平成10年の交通条件に基づいて算出された値です。

#### －伊平屋・伊是名と他地域との所要時間－

区 間	経 路	所要時間
伊平屋－名護市	前泊港→（船舶）→ 運天港→（自動車）→ 名護市役所	169分
	沖繩市 前泊港→（船舶）→ 運天港→（自動車）→ 沖繩市役所	226分
	浦添市 前泊港→（船舶）→ 運天港→（自動車）→ 浦添市役所	245分
	那覇市 前泊港→（船舶）→ 運天港→（自動車）→ 那覇市役所	258分
伊是名－名護市	仲田港→（船舶）→ 運天港→（自動車）→ 名護市役所	144分
	沖繩市 仲田港→（船舶）→ 運天港→（自動車）→ 沖繩市役所	201分
	浦添市 仲田港→（船舶）→ 運天港→（自動車）→ 浦添市役所	220分
	那覇市 仲田港→（船舶）→ 運天港→（自動車）→ 那覇市役所	233分

※乗継時間は乗船時30分、下船時15分を想定しています。

※前泊港、仲田港までの島内からの移動時間は10分を想定しています。

※自動車を利用する経路については走行距離200kmにつき30分間の休憩時間を所要時間に見込んでいます。

## 伊平屋・伊是名と沖縄本島を結ぶフェリーの欠航状況

伊平屋・伊是名村と運天港を結ぶ唯一の交通手段であるフェリーは、台風の到来時期や冬の偏西風が強い時期には、荒天により欠航することが多く見られます。

各年で多少のばらつきがありますが、伊平屋航路では3年間（平成15年度～平成17年度）の平均で、年間約105.3往復、多い年で120.5往復（平成16年度）が欠航しています。伊是名航路でも、3年間（平成15年度～平成17年度）の平均で年間約90.3往復、多い年で107往復（平成16年度）が欠航しています。

－船舶の就航率(%)－

航路	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平均
運天～伊平屋	87.8	83.5	85.0	85.4
運天～伊是名	88.8	85.4	88.4	87.5

資料：伊平屋村・伊是名村資料

また、フェリーは1度欠航するとその期間が1週間にもなることがあります。

このようなフェリーの欠航は、全国から人々が集まる島のイベントにも影響を与えています。平成17年には、毎年10月に開催され関係者を含め500人以上の参加がある「伊平屋ムーンライトマラソン」が、沖縄近海で発生した台風20号の影響を受け、大会開催日3日前にイベントの中止が決定されました。

フェリー運航の不確実性は、人の往来の妨げとなるほか、物資輸送も滞るなど、伊平屋・伊是名村の人々の暮らしと経済にとって大きな問題となっています。

－船舶の全便欠航の状況－

航路	平成16年度						平成17年度					
	全便欠航した日数(日)	全便欠航のうち					全便欠航した日数(日)	全便欠航のうち				
		1日欠航(回)	2日連続欠航(回)	3日連続欠航(回)	4日連続欠航(回)	5日以上連続欠航(回)		1日欠航(回)	2日連続欠航(回)	3日連続欠航(回)	4日連続欠航(回)	5日以上連続欠航(回)
運天～伊平屋	46	9	5	4	2	1	43	0	5	4	0	1※
運天～伊是名	50	7	10	3	3	1	34	10	7	2	1	0

※運天～伊平屋路線の平成17年度5日以上連続全便欠航は、実施計画が1日1便（通常2便）であった。

資料：伊平屋村・伊是名村資料

## 現状の交通体系における問題に対する利用者の声

伊平屋・伊是名～運天港間の船舶利用客や伊平屋・伊是名村の地元関係団体及び地元各自治会の方々へのアンケート調査を実施し、現状の交通体系の問題に対する利用者の声を拾い集めました。集まった利用者の声をまとめると、「フェリーの欠航が多い」、「本島までの所要時間が長い」、「代替交通手段がない」、「本島内での移動が不便である」などの問題点が挙げられています。

### 交通体系の問題に対する利用者の声

- 沖縄本島に滞在している場合に、フェリーの欠航により必要以上の支出（交通費、宿泊費、食費など）を余儀なくされる。
- 船が出航できなくて、親戚等の葬祭行事に出席できない不便さがある。
- 悪天候により公務での村外への出張に行かれないことや、公務が済んで帰ろうにも帰れないことがある。特に学校の教諭などの場合は、児童・生徒は授業が受けられず自習になる。
- 島外から講師等を派遣依頼するが、フェリーの運航状況により変更を余儀なくされ、調整に困ることがある。
- フェリーの欠航は、定期通院や乳幼児の定期検診などの支障となり問題である。
- 伊是名～那覇間の航空が定期運航でなく、チャーター運航であることから料金が高額であるが、フェリーが連続して欠航した際、他の交通手段がないために仕方なく利用することがある。専門医の受診で通院する場合、医療費のほかに高額な交通費が重なり、経済的負担が大きい。

## 空港整備の必要性

伊平屋・伊是名村の交通体系の現状における問題点などから、伊平屋空港整備の必要性は以下のように整理されます。

### ●離島生活・経済活動を支える本島との移動交通手段の確保

現状のフェリーによる交通は荒天による欠航が多く、離島と沖縄本島との行き来は不確実なものとなっており、人の往来の妨げとなるほか、物資輸送も滞るなど、伊平屋・伊是名村の人々の暮らしと経済にとって大きな問題となっています。離島における交通は、フェリーのみならず代替交通手段としての航空が必要です。

### ●島の暮らしを豊かにするための移動時間の短縮

現状では、両村から那覇市内に行くのに4時間程度を要しています。伊平屋・伊是名村は国内で高速交通体系に組み込まれていない残り僅かな地域となっています。他の事例からも移動時間の短縮が地域間交流の拡大に繋がることがわかっており、島の暮らしを豊かにするため、那覇空港を結節点とした航空ネットワーク網に両村を組み入れることが必要です。

### ●急用時における迅速で確実な移動手段の確保

急病人の発生や冠婚葬祭行事への参加などで早く確実に移動したい時に、迅速性を有し、フェリー欠航時にも運航可能なこともある航空は、離島であるが故に生じる障害を克服するための交通手段として必要です。

### ●防災拠点としての役割

空港は、台風や地震、津波などの自然災害時に、過去の事例においても救命救難・救援物資輸送活動の拠点として機能し、地域の復興に貢献しています。災害時における緊急輸送拠点を確保する上でも空港の整備は非常に重要です。

# 空港整備による効果や影響について

## 航空旅客数の予測

伊平屋空港が整備された場合に、伊平屋空港－那覇空港路線を利用すると考えられる将来の航空旅客数を予測しました。

### 予測の基本的な考え方

伊平屋空港が整備された場合における伊平屋空港－那覇空港路線の航空旅客数の予測は以下の考え方を基本として行いました。

**手順 1** 伊平屋・伊是名村と沖縄本島間の総旅客数の予測は？

- 伊平屋・伊是名村と沖縄本島間の総旅客数（フェリー＋航空利用者数）は両村の経済規模や交通の利便性によって変化することから、これらの将来予測値を用いて予測しました。

**手順 2** 伊平屋・伊是名村と沖縄本島の各地域間の総旅客数は？

- 伊平屋・伊是名村と沖縄本島間の交通利用条件は出発・目的地が沖縄本島のどの地域であるかによって異なるため、旅客数の予測は、沖縄本島の地域別に行う必要があります。
- 伊平屋・伊是名村と沖縄本島の各地域間の総旅客数は、手順 1 で予測された総旅客数に、現状の総旅客数に占める沖縄本島各地域のシェアを乗じて算定しました。

**手順 3** 伊平屋空港－那覇空港路線の航空旅客数は？

- 手順 2 で予測された伊平屋・伊是名村と沖縄本島各地域間の総旅客数のうち、航空を利用する旅客数を、想定される利用条件（所要時間、費用等）や他の交通機関との競合条件をもとに予測しました。
- 地域別に予測される航空旅客数を集計した結果が、伊平屋空港－那覇空港路線の航空旅客数となります。

**手順 4** 伊平屋空港－那覇空港路線に想定される就航機材と便数は？

- 手順 3 で予測された伊平屋空港－那覇空港路線の航空旅客数と、想定する就航機材・平均搭乗率を用いて、日当たりの就航便数を試算しました。

## 航空旅客数の予測結果

### (1) 予測条件

伊平屋空港～那覇空港路線の航空旅客数は、航空運賃を 10,000 円と想定して試算を行いました。

### (2) 予測結果

伊平屋空港～那覇空港路線の航空旅客数は、次のようになることが予測されます。

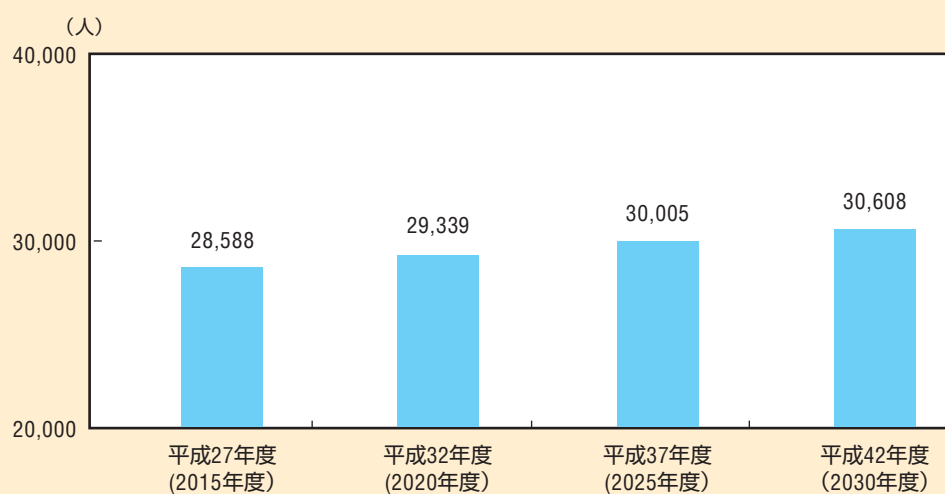
・2015 年度では年間約 29,000 人（伊平屋村：約 19,000 人、伊是名村：約 10,000 人）

・2030 年度では年間約 31,000 人（伊平屋村：約 20,000 人、伊是名村：約 11,000 人）

また、座席数：39 席の航空機が、1 日当り 2 往復就航することが想定されます。

なお、これらの航空旅客数の予測結果は想定する航空運賃により変動いたします。

－伊平屋空港～那覇空港路線 航空旅客数予測値－



－伊平屋空港～那覇空港路線 航空旅客数予測値（地域別内訳・便数想定）－

地域	航空旅客数予測値 (人)			
	平成 27 年度 (2015 年度)	平成 32 年度 (2020 年度)	平成 37 年度 (2025 年度)	平成 42 年度 (2030 年度)
伊平屋村	18,741	19,160	19,532	19,868
伊是名村	9,847	10,179	10,473	10,740
伊平屋空港～那覇空港路線 航空旅客数	28,588	29,339	30,005	30,608
日当たり便数 往復 (DHC-8 : 39 席)	2	2	2	2



## 空港整備に期待される効果や心配される影響

空港が整備されることにより、伊平屋・伊是名地域には、様々な効果や影響がもたらされると考えられます。これまでに、伊平屋村・伊是名村の住民や有識者、船舶・航空旅客及び地元関係団体を対象に行われたアンケートやヒアリング調査の中から、空港整備によって期待される効果や心配される影響について寄せられたご意見を整理しました。

### 【島の活性化に関して期待されている効果】

期待されている効果として、「空港整備による雇用の増加」、「沖縄本島との距離が縮まることによる生活範囲の拡大」、「若者の定住」などがあります。

地元関係団体の方々へのアンケート調査では、多くの方が、空港整備により「都市が身近になることで若者が定住するようになる」と回答されています。

期待される効果に関する主なご意見としては以下のようなものがありました。

- 伊平屋空港を早急に着工し、海と空の交通網の整備を図り、若者が夢を持って帰島し活気ある島作りに参加してほしい。
- 本島中心部へ気軽に移動できるようになることで生活範囲が広がり、今以上に生活意欲が高まる。
- 島が元気になる。
- 雇用が増加する。

### 【産業振興に関して期待されている効果】

期待されている効果として、「空港整備による観光産業の振興」、「出張時の利便性向上」、「輸送手段の確立や輸送コストの低下」、「販路の拡大」などがあります。特に、観光産業への効果を期待する声が多く寄せられています。

地元関係団体の方々へのアンケート調査では、多くの方が、空港整備により「仕事がしやすくなる」、「事業活動の変化が期待される」と回答されています。

期待される効果に関する主なご意見としては以下のようなものがありました。

- 新しい観光体制がとれ、観光客の増加や観光産業の振興につながる。
- 村の豊かな自然を活用した自然体験型観光の事業化が期待される。
- 宿泊事業者の収入の安定。
- 両村の交流の場となり、観光業、販売業などの活性化が図れる。
- 本土および本島への輸送の迅速化・コスト減による地場産業（海産物・農産物）の販路拡大・出荷増加が期待できる。
- 宅配業の参入。

## 輸送手段の安定性確保に関して期待されている効果

期待されている効果として、「空港整備によるフェリーの欠航時の代替手段の確立」、「緊急時の活用」などがあります。

地元関係団体の方々へのアンケート調査では、多くの方が、空港整備により「緊急医療の搬送体制が整う」と回答されています。

期待される効果に関する主なご意見としては以下のようなものがありました。

- 台風時期はフェリーの欠航が多く、冠婚葬祭行事への参加を断念するなど困ることが多いが、空港整備によって改善が期待できる。
- 天候に左右されにくい輸送手段の確保。
- 緊急を要する仕事や生活物資の輸送等に対応でき便利になる。
- 急病人搬送の迅速化。

## 空港整備により心配されている影響

空港整備に期待する効果に対して、心配される影響に関するご意見も寄せられています。主なものとしては、「空港整備による自然環境への影響」、「財政への影響」、「フェリーの旅客減少」などが挙げられています。また、伊平屋・伊是名間に架橋が実現されなければ、空港整備による効果が期待できないといったご意見も寄せられています。

地元関係団体の方々へのアンケート調査では、多くの方が、空港整備により「島のゆったりとした時間の流れに変化が生じる」と回答されています。

心配される影響に関する主なご意見としては以下のようなものがありました。

- 豊かな自然を代償にして整備しても、ほとんど利用されなくなった離島の空港をいくつも見てきた。伊平屋も十分な検討をして慎重な判断をしてほしい。
- 島民の為なら、利便性が改善されるので空港はあった方が良い。ただし、村や村民の負担が増えることも考えられるため、経済性を含め十分に検討してほしい。
- 自然が破壊されることが心配。
- 観光客の増加による治安の悪化。
- 村営船舶の利用が減少し、船舶財源の悪化が懸念される。

# 候補地について

## 空港整備に向けた取り組みの概要

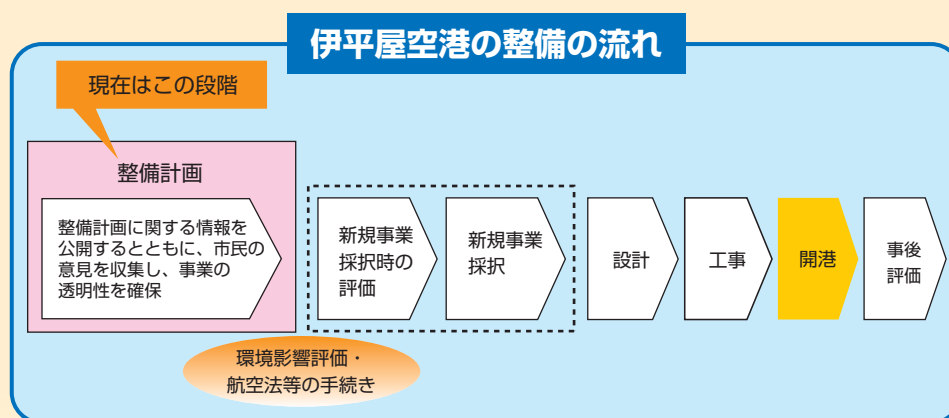
伊平屋村・伊是名村の両村は本土復帰当時から沖縄県等に対し空港整備に向けた要請活動を行なってきました。

また、沖縄県においても、離島における生活利便性の向上と観光や産業振興の観点から、同地域における空港整備に向けた様々な検討が行なわれてきました。

## 伊平屋空港整備にかかるこれまでの主な経緯

- S52** 伊平屋村における空港適地調査及び基本設計を実施し、野甫地区、前泊地区、島尻地区の3候補地について比較検討を行う。
- S53** 伊是名空港立地可能性調査及び基本設計を実施し、3箇所の候補地について比較検討を行う。
- S59** 空港建設位置として野甫地区を選定し、国へ伊平屋空港基本計画概要書を提出。
- S62** 地元野甫区の反対により、整備を見送る。
- H10** 野甫地区において地権者同意取り付け作業を実施。(伊平屋村)
- H10** 伊是名村は、伊是名場外離着陸場の使用を開始。
- H11** 伊平屋空港基本計画策定調査を実施、検討委員会等により基本計画(沖縄県案)を策定。(野甫案)
- H12** 野甫地区における空港整備計画(案)の地元説明会を実施。
- H14** 野甫地区において再度、地権者同意取り付け作業を実施(伊平屋村)し、全員に近い地権者の同意が得られる。
- H17** 沖縄県、伊是名村、伊平屋村で構成する「伊平屋空港協議会」を設置。

伊平屋空港協議会(沖縄県・伊平屋村・伊是名村)では、パブリック・インボルブメント(P I)手法を導入し、計画段階から両村民を中心とする関係者の方々に積極的に情報を提供していく中で、皆様のご意見を伺いながら伊平屋空港の整備に向けた検討を進めることとしました。



## 野甫島が空港の候補地となった経緯

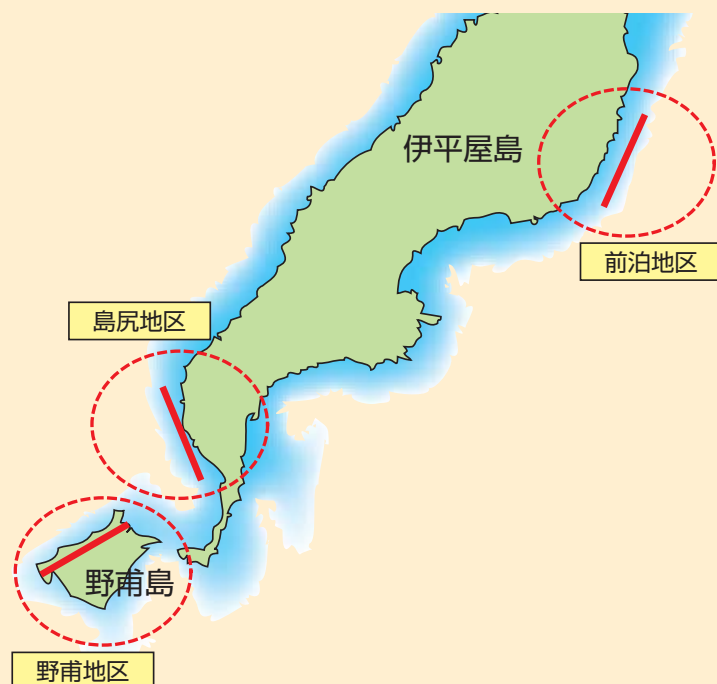
空港の建設候補地については様々な検討がなされてきました。これらの検討結果や伊平屋、伊是名両村との話し合いにより、伊平屋空港の整備は、伊平屋村の野甫島を候補地として検討が進められることとなりました。

### 野甫島を候補地として選定した主な理由

#### 理由 1

**これまでの空港候補地に関する検討において、野甫島が候補地として最適であるとの結論が得られていること。**

空港候補地については、昭和 52 年より調査、検討されています。平成 11 年度調査では、有識者等からなる検討委員会が設置され、その中で、野甫案、前泊案、島尻案の 3 案の空港候補地について、航空機の運航条件や建設条件、自然環境条件などの様々な観点から検討した結果、野甫島案が空港候補地として最適であるとの結論が得られました。



— 空港候補地 —

空港候補地として、野甫島案が他の案に比較して相対的に優れている点としては、以下のものが挙げられています。

- ・島の重要な産業である漁業への影響が相対的に低い。
- ・他の候補地と比較して、建設コストが相対的に安価である。
- ・他の候補地と比較して、海洋生物や海域環境への影響が相対的に低い。

## 理由 2

**空港候補地として既に地域住民に認知されており、地権者の同意が概ね得られている状況にあること。**

平成 10 年と平成 14 年の 2 回にわたり、伊平屋村は、空港建設用地として想定される範囲（最終的に決定したものではない）の地権者に対する説明や話し合いを行いました。

これにより、空港候補地の詳細な範囲は決定していないものの、空港建設に関する地権者の同意は概ね得られている状況にあります。

### <野甫島の位置>

野甫島は伊平屋村と伊是名村の間に位置し、伊是名村からも近い位置にあります。現在、野甫島の野甫港と伊是名村との間には、両村を結ぶ渡し船が運航されています。



— 空港候補地「野甫島」 —

## 空港計画の概要

### ● 計画概要 (案)

- 滑走路 : 1,200 m × 30 m (予定)
- エプロン : 2バース (航空機が駐機する場所)
- 航空保安施設 : 無線・照明施設 (航空機の離着陸を支援する施設)
- 就航機材 (想定) : DHC-8 型機 (通称: ダッシュエイト、39 人乗り)



—就航機材 DHC-8 型機—



—空港イメージ図—

計画をイメージしたもので、確定されたものではありません。

# まとめ

## ● 空港整備の必要性について

「フェリー欠航時の移動交通手段の確保」や「移動時間の短縮」、「急用時や災害時の対応」など、伊平屋・伊是名村の人々が将来にわたり豊かに安心して暮らせる環境を実現する上で、空港整備が必要であるといえます。

## ● 空港整備による効果や影響について

伊平屋空港が整備された場合に伊平屋空港を利用する航空旅客数は、2015年度では年間約29,000人（伊平屋村：約19,000人、伊是名村：約10,000人）と予測されます。

伊平屋空港の整備は、伊平屋・伊是名両村に「島の活性化」や「産業振興」、「輸送手段の安定性確保」などの効果をもたらすことが期待されています。しかし、一方では、「自然環境や島の財政への影響」、「フェリーの旅客減少」、「島のゆったりとした時間の流れに変化が生じる」などの影響を心配する声もあります。

## ● 候補地について

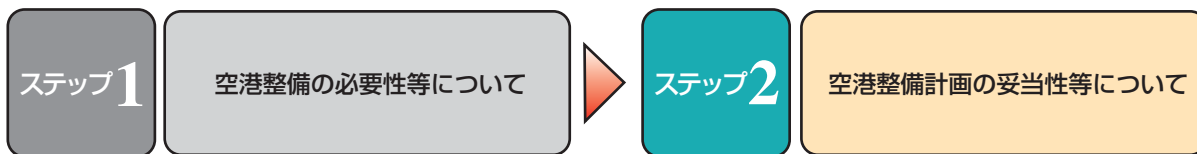
これまでの空港候補地に関する検討や有識者等からなる検討委員会の中で、野甫島案が空港候補地として最適であるとされています。

また、併せて地権者の同意もほぼ得られていることなどの理由から、空港候補地は野甫島として、今後、皆様のご意見を伺いながら伊平屋空港の整備に向けた検討を進めてまいります。

皆様のご意見をお待ちしています。

## 伊平屋空港の調査報告書2についての予告

### 検討のステップ



次回のステップ2では伊平屋空港の整備計画の内容や費用対効果分析結果、周辺環境への配慮など、空港整備計画の妥当性を判断するための情報をご提供する予定です。

### お問い合わせ先

## 伊平屋空港協議会（事務局：沖縄県土木建築部空港課）

沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号 TEL:098-866-2400 FAX:098-869-6279

ホームページ <http://www.pref.okinawa.jp/airport/index/>

メールアドレス [aa063002@pref.okinawa.lg.jp](mailto:aa063002@pref.okinawa.lg.jp)

沖縄県伊平屋村役場：経済建設課 TEL:0980-46-2176 FAX:0980-46-2606

ホームページ <http://www.Vill.iheya.okinawa.jp/>

沖縄県伊是名村役場：建設環境課 TEL:0980-45-2004 FAX:0980-45-2144

ホームページ <http://www.izena-okinawa.jp/>